

# 急病人搬送増える

## —六十二年の消防統計—

### 火災

市消防本部では、このほど昭和六十二年一月から十二月までの消防統計をまとめました。

損害額は、一億二千七百八万円（日光市二千七百二十三万円、足尾町九千九百八十五万円）で、出火原因はたき火が七件でトップでした。

二月二十九日から三月十三日まで「春の全国火災予防運動」が行われます。

統計によると、昨年の火災発生件数は過去五年間で最高の二十四件（日光市二十一件、足尾町三件）で、内訳は、建物火災十六件、林野火災三件、車両火災一件、その他四件となっています。



ガス・石油器具等の点検、火の元の管理を十分注意しましょう。

### 救急

急病人や交通事故等による負傷者の救急活動では、救急車の出勤回数が六百九十八件、搬送人員七百三人となっています。前年に比べ、件数で六件、人数で二十二人増えています。内訳をみると、急病による

## 救急統計

(日光地区消防組合)

種別		昭和61年	昭和62年
出動件数	急病	293	331
	交通事故	169	177
	一般負傷	101	85
	火災事故	0	1
	自然災害事故	0	0
	水難事故	1	0
	労働災害事故	18	16
	運動競技事故	15	12
	加害	6	4
	自損行為	4	5
	その他	85	67
計		692	698
搬送人員	急病	280(132)	310(189)
	交通事故	187(37)	216(49)
	一般負傷	101(30)	76(22)
	火災事故	0(0)	1(1)
	自然災害事故	0(0)	0(0)
	水難事故	1(0)	0(0)
	労働災害事故	17(5)	16(7)
	運動競技事故	14(2)	14(8)
	加害	6(1)	4(4)
	自損行為	3(1)	2(0)
	その他	72(26)	64(38)
計		681(234)	703(318)

( )の数字は市内居住者

出動が三百三十一件で、前年に比べ三十八件増え、一般負傷は逆に八十五件で十六件の減となっています。

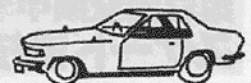
搬送人員の内訳では、急病が三百十人で前年より三十人、交通事故が二百十六人で二十九人の増、一般負傷は七十六人で二十五人減となっています。

搬送人員の総数七百三人の中には、観光客や市外居住者が多く、市内居住者は三百十八人です。特に、交通事故は二百十六人中百六十七人が市外居住者であり、観光地日光の特性をみせています。

緊急時に備え、24時間体制の消防署



スリップ事故に十分注意しましょう



二月は、一年中で最も寒さの厳しい季節です。雪や夜間の冷え込みによって路面が凍結し、スリップ事故が起きやすい時期です。

スリップ事故を起こさないよう次のことを心がけ、細心の注意を払いましょう。

- ◎雪道や凍結した道路では、チェーンやスノータイヤを装着し、急ハンドル、急ブレーキを避けましょう。
- ◎スピードを落とし、車間距離を十分とりましょう。
- ◎車に乗ったら、シートベルトを装着することが義務づけられています。必ず装着しましょう。